



叡智を与えてくれる智恵の果実  
～ 奇跡のリンゴ～

実務表現 2010.9.22

岡 ベラ

# 表現者・もの作りの姿勢

ニュートンよりも、ライト兄弟よりも、偉大な奇跡を成し遂げたといわれる男の言葉。

「死ぬくらいなら、一度ぐらい  
バカになってみたらいい。」

木村秋則

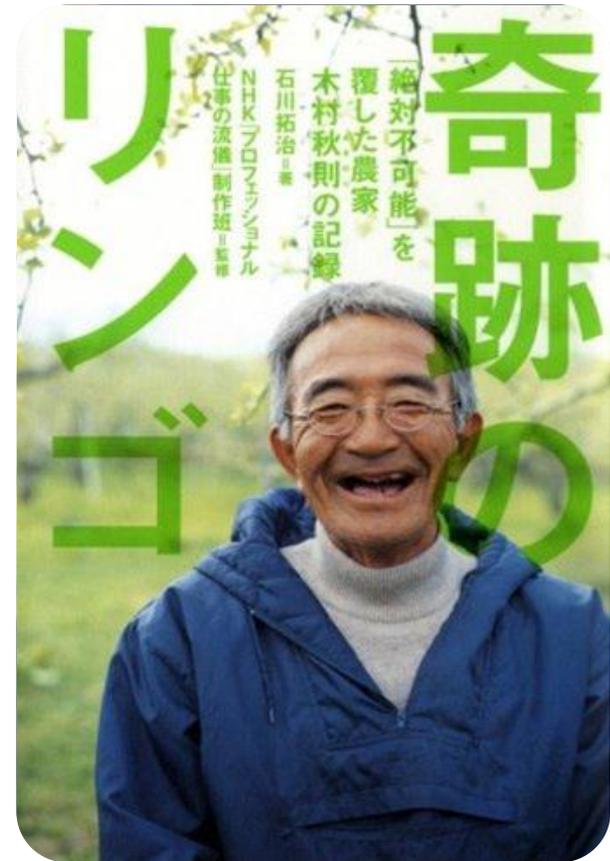
# 奇跡のリンゴ

ニュートンよりも、ライト兄弟よりも、偉大な奇跡を成し遂げた男の物語。

「リンゴの木は、りんごの木だけで生きている訳ではない。周りの自然の中で、生かされている生き物なわけだ。人間もそうなんだよ。人間は、そのことを忘れてしまっ、自分独りで生きていると思っている。

そして、いつの間にか自分が栽培している作物も、そういうもんだと思ひ込むようになったんだよな。農薬を使うことの一番の問題は、本当は、そここのところにあるんだよ」

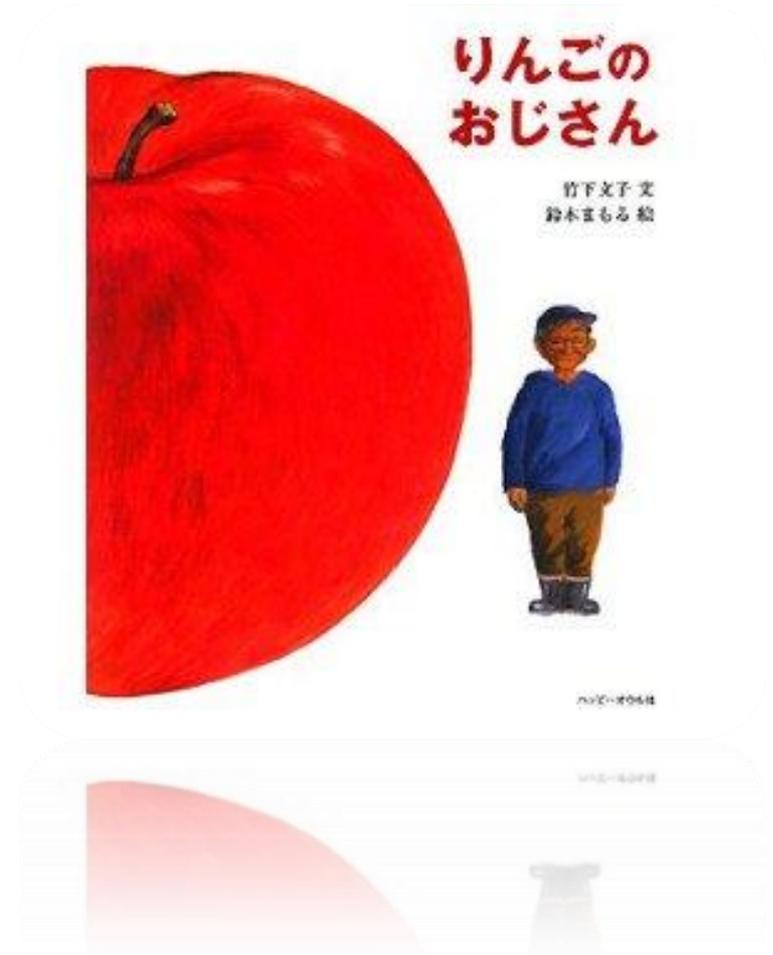
絶対不可能とされた完全無農薬によるリンゴ農園を実現させた木村さんの生き方・人生観。



# 《絵本》 りんごのおじさん

とびきりおいしいと評判のおじさんのりんご。でもそれは、何年も何年もかかって、やっとできるようになったのです。

不可能といわれた無農薬のりんご栽培にたったひとりで挑んだおじさんの、実話をもとにした物語。



# 《舞台》 「りんご」木村秋則物語

V6・長野博の主演舞台『「りんご」木村秋則物語』の製作発表が9月16日、都内で行われた。会見には、長野と浅野和之ら出演陣のほか、演出の栗山民也、脚本の藤井清美に加えて、本作の主人公のモデルとなった、木村秋則氏も登壇した。

会見では、野菜ソムリエの資格も持つ、ジャニーズきっての食通、長野が4、5年前から木村氏のりんごを食べていると明かしながら、「木村さんのりんごは、おいしいだけでなく、自然に身体にしみこんでいく。生命の持つパワーを感じる」と激賞。「木村さんに直接お会いして、人柄の温かさに心動かされた。自然と向き合ったとき、木村さんが何を思い、どんな苦労をしてきたかを考えながら、大切に演じていきたい」と舞台への意気込みを語った。

また、舞台化にあたって木村氏は、「これまでの自分がかからさまに出てくるのははずかしいが、日本の農業が自然栽培に向かい、全国の農家が笑って暮すことができるよう、少しでもお役に立つことができれば」とはにかみながら語った。

公演は、11月5日(金)から14日(日)までの東京・ル テアトル銀座 by PARCO公演を皮切りに、11月から12月にかけて、兵庫、愛知、福岡、宮城各地を巡演する。

<http://ringo-stage.com/>

佐藤江梨子

長野博

舞台  
りんご

木村秋則物語

8月6日【特報】  
舞台化決定!

監督 木村秋則  
OFFICIAL SITE

《プロフェッショナル仕事の流儀》

# りんごは愛で育てる

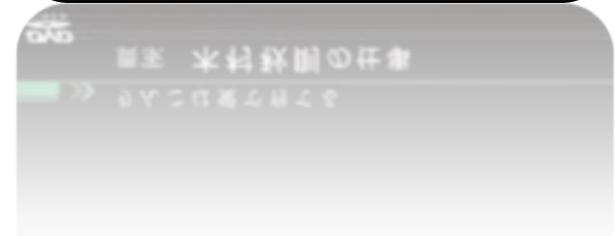
～ 農家/木村 秋則の仕事～

インターネットで売り出すと10分で完売。

そして、腐らない。

そんな「奇跡のりんご」を作るのが、青森県弘前市の農家、木村秋則。木村は農薬を全く使わない本格的なりんご作りを日本で初めて成功させた。農業、そして人間に対する、木村の静かで強い愛情と情熱を追う。

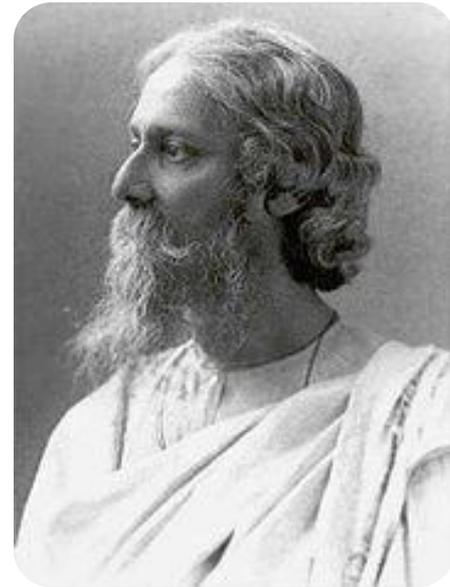
(2006年12月7日放送)



# ラビンドラナート・タゴール 「果物採集」

危険から守り給えと祈るのではなく、  
危険と勇敢に立ち向かえますように。  
痛みが鎮まることを乞うのではなく、  
痛みを打ち勝つ心を乞えますように。  
人生という戦場で味方を探すのではなく、  
自分自身の力を見いだせますように。  
不安と恐れの下で救済を切望するのではなく、  
自由を勝ち取るために耐える心を願えますように。  
成功の中にあなたの恵みを感じるような卑劣者で  
はなく、失意のときにこそ、あなたの御手に握ら  
れていることに気づけますように。

石川拓治訳



**ラビンドラナート・タゴール：**

1861年生まれ、近代インドの  
最高峰の詩人、思想家。

アジアで初めてのノーベル文  
学賞を受賞